



【防災井戸】

日々の「くらし水」が 命綱となる

被災地へ赴いた経験から
防災井戸の重要性を語っ
た蔵持地区まちづくり委員
会の会長、高山正之さん

蔵持地区を担当する名張
市地域環境部協働のまちづ
くり推進室 地域マネージャ
ーの大杉 樹(たつき)さん

近所の自宅にも井
戸水がある市民セ
ンター職員の長田
まち子さん

カフェで子どもや住民と
のふれあいをサポートす
る蔵持市民センター長
の三瀬幸綱さん

いま再び注目されているのが「井戸」です。各地で「防災井戸（災害時協力井戸）」の登録が進み、活用方法が探られています。しかし、井戸の水がそのまま飲み、さらにその水を地域住民の結びつきに役立てている事例は全国でもそう多くはありません。防災井戸を整備した経緯やその水を使ったカフェスペースの使い方などを知りたくて、三重県名張市にある蔵持地区を訪ねました。

防災井戸が結ぶ笑顔のコミュニティ

「この井戸水はパン屋さんや喫茶店の人も汲みにくるんよ——地元の人たちの愛着が窺える。奈良県と境を接する三重県名張市の中央部に位置する蔵持地区には3356人、1637世帯（2025年4月時点）が暮らす。蔵持市民センターの隣地に防災井戸がある。地区住民から公募して決めた愛称は「蔵清水の井戸」。蔵持地区のきれいでまるやかな味の井戸水が、災害時には日々の「くらし水」として地域の命綱になる。定期的に水質検査をして雑菌がなく豊富な水量の井戸水は、非常時だけでなく平時にも地域の「くらし水」だ。電気ポンプで汲み上げ蛇口から利用する。災害時に停電し発電機も使えなくなったら手押しポンプで汲み上げればよい。

いざというときの
命綱はふだんにも





1 蔵持市民センター工芸室の入口に掲げられた「蔵清水カフェ」の看板。入口は市民センターの玄関と別なので利用者が入りやすい 2 蔵清水の井戸は名張市の災害時協力井戸に指定されている 3 手前が「蔵清水の井戸」で、奥の白い建物が蔵持市民センター 4 蔵清水の井戸から水を汲む。停電になっても使えるように手動式も備えている



地域住民の自発的な まちづくりで提案

今回の取材も蔵清水カフェで行ない、たくさんの人たちが集まってくれた。防災井戸を中心にいらいがやがや、笑顔のコミュニティが生まれている。そんな印象を受けた。

電気代などの維持費は24軒（2025年現在）の協賛者の年間契約料1軒当たり2000円と、1缶（20L）50円の随時利用料で賄う。

市民センターの工芸室には、井戸水を引いたウォーターサーバーがある「蔵清水カフェ」を併設。ステイックタイプのコーヒーや紅茶、緑茶、ジュース、スープ、味噌汁などをセルフで利用する。1回の料金（カフェ事業の協力金）はチケット1枚100円。

名張市では1995年（平成7）頃からいくつかの地域で、任意に結成されたまちづくり組織による自発的な住民自治の活動が始まっていた。こうした市民参画の取り組みの気運をさらに高めるため、2003年（平成15）、名張市は「ゆめづくり地域予算制度」を創設。これはおおむね小学校区を単位とする市内15の地域づくり組織に対し交付金を支援する制度だ。



10

10 授業の一環で「蔵清水の井戸」を訪ねた名張市内の小学生たち
11 「蔵清水カフェ」で夏休みの宿題に取り組む地元の子どもたち
提供：蔵持市民センター

冷たい飲みものも楽しめる場にし
ようと皆で考えました」と話す。
市民センターの行事や講座、ラ
ジオ体操に参加してスタンプを貯
めたり、イベントボランティアに
協力するとカフェセットを貰え
るしくみもある。合田さんは「夏
休みに小学生が4〜5人で、朝か
ら夕方まで弁当持参で宿題をやっ
たり、おしゃべりやゲームなどを
楽しんでいきます」と微笑む。
子どもは半額50円でドリンク飲
み放題、エアコンの効いた部屋に
半日いられるのだからうれしいに

違いない。かと思えば、お年寄り
同士が集ったり、畑仕事の休憩で
の利用も。カフェ券の利用は年間
約1000枚。世代を超えた憩い
の場になっている。

子どもたちに 受け継がれる価値

市内の子どもたちに広く知って
もらおうと、小学2年生は「まち
探検」で、4年生は「防災学習」
で蔵清水の井戸を必ず訪問する。
手押しポンプで汲んだ水を飲む初



めての体験に子どもたちは喜ぶ。
蔵持市民センター長の三瀬幸綱さ
んは「一生懸命、蔵清水の井戸の
価値を子どもたちに説明してい
うちに愛着が深くなりました。地
域にこういうものがあると学校と
住民がつながれます。子どもたち
を通じて井戸の価値が長く伝わ
てほしい」と話している。
カフェもできてコミュニティの
結び目となった蔵清水の井戸の現
状を見ることができれば、防災井
戸の必要性をもっとも熱心に説
いていた吉岡晋一さんも感激するに



11

違いない。「きっとあの世でびっく
りしてるわ」と幸子さんは笑う。
高山さんは「被災地に行って水
の大切さがよくわかりました。南
海トラフなどの大地震があったと
き蔵清水の井戸が皆の役に立てれ
ばありがたいことです」と話す。
防災井戸が必要になる事態など、
できればあってほしくない。しか
し、いざとなったときにその真価
を発揮できるのは、蔵清水の井戸
のように、ふだんから地域の人た
ちに親しまれている水源だろう。

(2025年4月23日取材)

